

リスクに挑み、失敗を楽しむ努力！

大島秀子（長岡技術科学大学国際連携センター）

“インプロ”とは、インプロヴィゼーション(improvisation)の略語であり、本来“即興”を意味する言葉であり、音楽やダンスをはじめ様々なパフォーマンスに存在するものであるが、ここでは即興演劇の一ジャンルのものに特化して、“インプロ”と呼ぶことにする。インプロには、様々なとらえ方がある。それを行う者の数だけあるとさえ言えるだろう。このたびは、インプロの第一人者であるキース・ジョンストンの理念に基づき、発表者自らがインプロを模索する中で得たものを、実践を通して共有したいと思う。

さて、そのインプロは、演劇であるからには、質の高いエンターテインメントたるべきものである。では、そのエンターテインメント性を支えるものは何か？ それは、インプロならではのものでなければならない。インプロは、練り上げられた台本もなく、稽古を積んでから舞台上に立つわけにもいかない。台本の世界観を役者が共有し、磨き上げた時を巧みに再現するものが演劇ならば、インプロはそこに居る者が世界観を共有すべく務めながら、ともに丁寧に時を刻んでいく作業であるだろう。

そのためには、進んでリスクを冒す必要がある。そもそも台本がないのだから、一瞬先は未知の世界だ。人間ならば、未知の世界に不安や恐れを抱くのが当然である。ストーリーを進めるということは、常にリスクに挑むということに他ならない。しかし、人間には危険を回避する本能が備わっている。進まずに留まろうとする本能と折り合いをつけながら、潔く前へ進んで行くのがインプロだ。一瞬先には、失敗が待っているかもしれない。しかし、その失敗も、楽しむことができるなら、ネガティブなものにはならない。リスクに挑み、失敗を悪とせず、むしろ積極的に楽しむことができるなら、それは貴重なエンターテインメントのリソースになり得るのだ。

この失敗を楽しむ態度は、学びの場にも必要なものだと言者は考える。どんどん間違えて、楽しみながら学ぶことができるなら、学びは、学習者にとっても教師にとっても実のあるエンターテインメントになるはずだ。当ワークショップでは、リスクへの抵抗や克服、たくさん失敗しそれを楽しむこと、そしてそれらがあってこそ得られる面白さを体感してほしい。